



ガリガリ君E-mail通信

令和6年1月(第183号)

新年号

下水道既設管路耐震技術協会



明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって実り多き年となりますようお祈り申し上げます。



新年のご挨拶

下水道既設管路耐震技術協会
会長 井上 克彦

令和六年の年頭にあたり、会員ならびに関係者皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年一年の本協会へのご支援を宜しくお願いいたします。

今年辰年です。辰年は時代が大きく動く「変革」や「激動」の年と言われておりますが、確かに近年の国内や海外の各種情勢次第では、様々な面で大きな変化が予想される年となりそうです。下水道業界では、4月からいよいよ国レベルでの上下水道事業の一体化がスタートします。水管理の視点からはあるべき姿に立ち返ることになりますが、水を司る辰が新たなスタートの年の干支となるのも何か奇縁を感じます。

また今年2024年問題の年です。4月1日から、これまで例外的に建設、運輸、医療に認められていた、時間外労働の上限規制の猶予が終了します。これまで、過重な時間外労働問題となっていたこれらの業界の労働環境が大きな影響を受けることになり、下水道事業に携わる私達も、自ら対策を講じたり発注者の対応をこれまで以上に働きかけなければなりません。

昨年度は大正関東地震から100年目ということで、様々な展示会や報道番組で地震の恐ろしさを再認識した年でしたが、昨年来環太平洋地域や日本近海での地震や火山噴火が頻発し、プレート動きの活発化が危惧されています。100年前に比べ、現在の都市構造や活動は当時とは比べものにならない程複雑化・巨大化し、次の大地震では想像がつかないような被害が想定されています。いつ発生するかわからない巨大地震や、想定外の状況に対応できるよう、今できる事をやっておくことが肝要です。

本協会の持つ3工法は、道路を掘削せずに効率的・経済的に耐震化を図れるという、大きな長所を持つとともに、地震後の調査で工法の有効性が実証された信頼と実績のある工法で、全国で3工法合わせて11万か所以上の施工実績を有し、安心安全な国づくりに大きく貢献してきました。

引き続き今年も、2024年問題への対応を図りつつ、本協会の耐震3工法の特長を生かし、いつ大地震が来てもいいような安心・安全なまちづくりの促進に向け、一致協力して取り組んでまいりましょう。

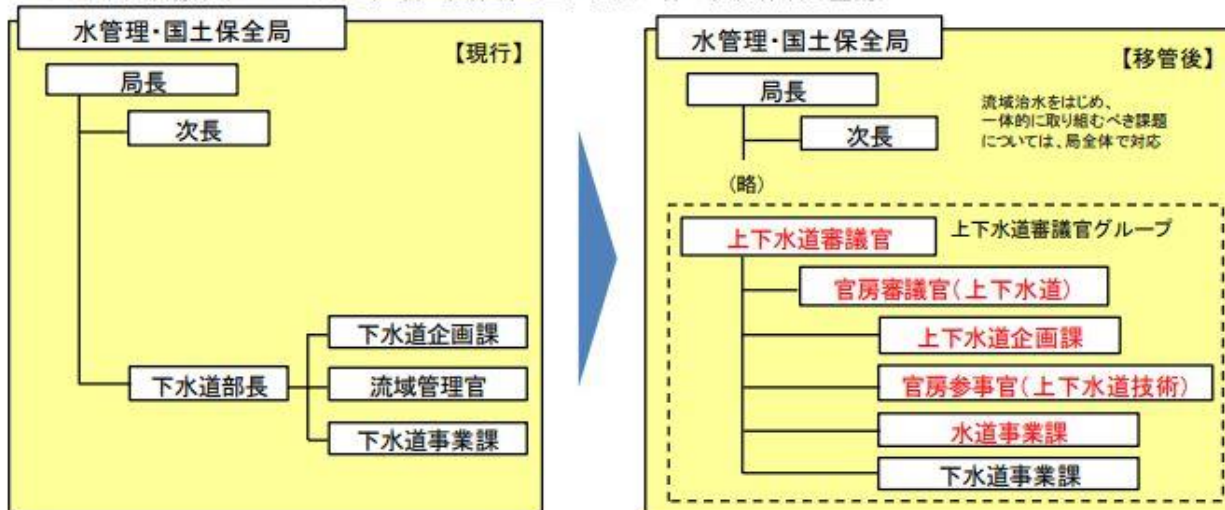
○ 能登半島で震度7の地震発生

新年早々の大地震が能登半島で発生しました。まだ全体の被害状況が掴めていませんが、現時点で地元の事業者から入手した下水道施設の被害関係の情報は次の通りです。

- 能登半島の市町の情報については地元の業者でも情報が取れていません。復旧・支援の車両以外は、通行規制がかかって行けないようです。
- それ以外の市町については、耐震化した箇所についての被害情報は今のところ入っていません。
- 金沢市内について、地元の事業者の調査では、耐震化したマンホールの、路上から確認できる被害は今のところありません。
- 一方市内では、下水道管の破損に起因する陥没や流下阻害がかなり出ているようで、現在バキュームによる汲上で対応しています。
- 珠洲市では、今月15日から今年度分の既設人孔耐震化工法による耐震化工事に着手する予定でした。

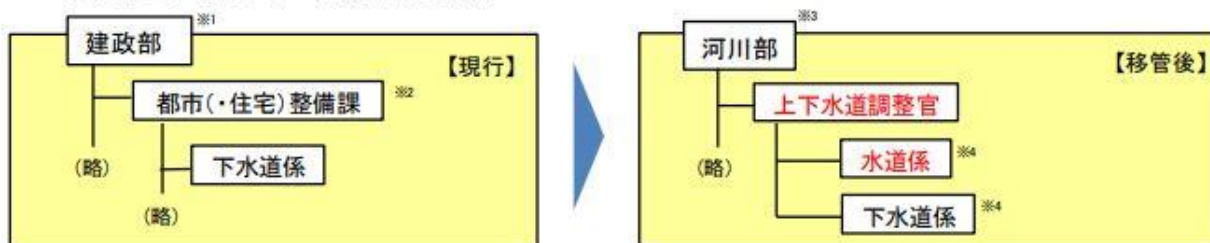
○ 国の新たな組織体制が明らかになりました

- 国土交通本省に局長級の上下水道審議官と、官房審議官(上下水道)を新設。
- 上下水道審議官グループとして、3課1官体制で上下水道一体の組織体制を整備。



2. 地方整備局及び北海道開発局における体制

- 地方整備局では、河川部に上下水道調整官や水道係等を新設するとともに、建政部が所管する下水道行政を河川部に移管し、上下水道一体の組織体制を整備。



※1,2,3 北海道開発局ではそれぞれ事業振興部、都市住宅課、建設部
 ※4 地方整備局では水道係、下水道係は地域河川課に所属
 北海道開発局では上下水道調整官、水道係、下水道係は地方整備課に所属

図-1 令和6年度からの新たな上下水道行政の執行体制
 (国土交通省水管理・国土保全局下水道部 令和6年度 下水道事業予算の概要 より)

4月からの水道整備・管理行政が国土交通省に移管されることに伴い、現在の下水道部等の組織体制が明らかになりました。

新たな組織体制の整備方針は次の2点からなります。

- ① 国土交通本省、地方整備局、国土技術政策総合研究所等に、上下水道一体の体制を構築。
- ② 国土交通省の有するインフラ整備・管理に関する知見や地方整備局などの現場力・技術力を活用し、災害対応や老朽化対策等における水道整備・管理行政の機能強化を図るとともに、水ビジネスの国際展開や、官民連携、技術開発等の上下水道共通の課題に対して一体的かつ効率的に取り組む。

具体的には、本省及び地方整備局は次のような組織体制となります（図-1）。

- ・国土交通本省に局長級の上下水道審議官と、官房審議官（上下水道）を新設
- ・上下水道審議官グループとして、3課1官体制で上下水道一体の組織体制を整備
- ・地方整備局では、河川部に上下水道調整官や水道係等を新設するとともに、建政部が所管する下水道行政を河川部に移管し、上下水道一体の組織体制を整備。

○ 来年度予算案が閣議決定されました

12月22日、政府の来年度予算案が臨時閣議で決定されました。予算規模は一般会計112兆717億円で、過去最大の昨年度当初予算の114兆3812億円より2%の減となっていますが、過去2番目の規模となっています。

予算のポイントでは、「経済の好循環の起点となる賃上げの実現」として、現場で働く幅広い方々の処遇改善として、ベアを令和6年度2.5%、7年度2.0%を実現するために必要な水準を措置し、そのためのしくみを構築するとしています。公共工事に関しては、設計労務単価を5年度は5.2%引き上げましたが、6年度も賃金上昇の実態等を反映した単価改定を2月に行うとしています。また、併せて下請事業者に対して適切な労務費が支払われるよう、標準的な労務費を著しく下回る場合に、行政から指導・勧告等を可能とする法改正案の、次期通常国会への提出を予定しています。

国土交通省関係では、公共事業関係費は昨年度とほぼ同額の5兆2901億円（昨年度5兆2878億円）で、このうちハード・ソフト一体による防災・減災、国土強靱化対策として4兆330億円（昨年度3兆9698億円）を計上しています。また、4月からの水道行政の移管に向け、上下水道一体での効率的な事業実施のための、計画策定支援、ウォーターPPP取組促進、新技術の活用のための新たな補助事業創設費用として30億円が計上されています。また、建設業の「2024年問題」への対応や、魅力的な産業の実現に向け、働き方改革の推進に係る実態調査、処遇促進、女性や若者の入職・定着の促進、生産性向上等に係る経費2億円を計上しています。

○ 令和6年 協会の主な活動予定

現在決まっている今年の主な活動予定は次の通りです。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ◆ 1月～2月 | クロスチェックパトロールの実施 |
| ◆ 1月18日 | 東京都下水道局流域下水道本部主催市町村下水道情報交換会 |
| ◆ 1月25～26日 | 石川県珠洲市地震被害調査 |
| ◆ 2月16日 | 令和5年度第6回委員会 |
| ◆ 4月25日 | 第23回定時総会 |

- ◆ 5月頃 管理技術者講習会
- ◆ 6月～7月 施工技術者研修会
- ◆ 7月30日～8月2日 下水道展'24 東京

協会からのお知らせ

○ 運営委員会、品質確保委員会が開催されました

本年度第5回の運営委員会と品質確保委員会が、12月5日に大手町の銭瓶町ビルディングで開催されました。

今回の審議内容は以下の通りです。

1 運営委員会

- (1) 東京都との意見交換会について
- (2) 第22回定時総会に向けた日程および取組み内容について
- (3) 「下水道展'24 東京」等への出展について
- (4) クロスチェックパトロールの実施について
- (5) 「先端技術・防災・減災技術フェア in 熊本 2023」出展報告
- (6) 第16回日本地震工学シンポジウム技術出展会出展報告
- (7) 落合水再生センターでの防災イベントの開催状況について

2 品質確保委員会

- (1) 開発者の取組み状況
- (2) クロスチェックパトロールについて
- (3) 3工法の東京都区部での施工実績の推移について
- (4) ホームページについて

○ 東京都下水道局との意見交換会が行われました

12月21日(木)、令和5、6年度の耐震化工事実施に関する東京都下水道局との意見交換会が開催されました。

局からは担当課長を含め3名、協会からは富田運営委員長以下4名の委員、及び事務局から3名が出席し、協会より事前に提出していた要望書に基づき、最近の耐震工事の進捗や実施状況、耐震工事を実施する上での課題やそれに伴う局への要望など15項目について、約1時間に亘って充実した意見交換が行われました(写真-1)。



写真-1 要望書の手交

○ 東京都下水道局 竣工図書納品仕様に変更されます

これまで工事完了図については「管きょ設計 CAD」での電子納品の試行を行っていましたが、本年4月以降、図面CADデータはSXF(P21)データ形式による電子納品に変更されます。これに伴い、「土木工事標準仕様書」「設計委託標準仕様書(管路用)」が4月1日付で改定される予定です。

編集後記

・新年早々の大地震の発生でした。ガリガリ君通信 168 号でお知らせしましたが、珠洲市では令和 4 年 6 月に追跡調査を行っており、また昨年 5 月に再び震度 6 強の地震があったことから、今年度の既設人孔耐震化工法による耐震化工事の着手に合わせ、今月 25～26 日に再度調査に入る直前の地震となりました。被害の全容は掴めていませんが、かなりの被害がでているようで心配です。

・4 月からの国の上下水道事業の執行体制が明らかとなりました。予想以上に大きな変更となりました。特に下水道部が無くなり局長級の審議官の元に上下水道事業が運営されるので、組織としては格上げされることになるようです。長年下水道部にお世話になってきた私達には、一抹の寂しさと共に今後の事業の運営方法や事業費がどのように変わるのかの不安もあります。

・また、地方整備局では河川部の中に上下水道係が入りました。これで一連の水収支の流れが出来つつあるようで、流域別下水道整備総合計画の河川協議で苦勞した我々には、感慨深いものがあります。

・表紙の写真は、今年の干支「辰」と門松です。「たつ」と発音される漢字にこの他「龍」と「竜」があります。調べてみると、3つの漢字とも架空の動物である「たつ」を指すようですが、「辰」は十二支の一つとして年号、月、時間、方位などを表すのに用いられ、「竜」は「龍」の略字で共に動物の「たつ」を表し、「辰」のような使い方はされません。ちなみに、外国にも同じような架空の動物に DRAGON がいますが、日本語で表記する場合には「竜」を用いて「龍」は使わないそうです。